

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

	記入日	2019年 7月 23日
派遣プログラム	■HUSA □USAC □UMAP	
留学先大学	リーズベケット 大学 (国名: イギリス)	
所属学部・学科等名	<ul style="list-style-type: none"> • Performing Arts BA(hons) from School of Film, Music and Performing Arts • Childhood Studies BA (hons) from School of Education 	
在籍身分	交換留学生	
留学期間	2018年 8月 27日～	2019年 6月 28日

1. 留学するまで

留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	私は、初等教育専攻で、将来小学校の先生になりたいという気持ちが大きく、小学校でも英語の授業が始まり、自分は英語を得意とする小学校の先生になりたいと考えていたから。また、高校1年生の時に語学研修で二週間ほどイギリスに来た時に通った高校で「ドラマ(演劇)」の授業を見学し、日本では授業では習うことのない教科に巡り合った。私は、ドラマと自己表現につながりがあると考え、日本の自己表現を苦手とする子どもたちにドラマの良さを伝えることができたらいいと考え、ドラマコースのある大学を選んだ。教育とドラマを並行して勉強し、それらを初等教育からアプローチして繋げることができればと思い、イギリスへの留学を決意した。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	大学に入学した当初から、大学生の間に一度は留学したいと考えていた。教育学部の学生は、教育実習が三年生であることから、それが終わった後にする人が多いようだが、私はできるだけ早く留学して、帰国後学んだことを大学生活で活かしたいと考え、大学二年生で留学することにした。秋に選考があることから、私は夏頃から語学試験の勉強を始めた。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	イギリスに留学を考えているなら、IELTSの成績が必要なので、イギリスだと確定しているならIELTSの勉強に特化することをおすすめする。私が留学の準備で一番辛かったのが、このIELTSの試験で、一回2万5千円ほど受験料がするが、必要なスコアを取得できないと申請のスタートラインにも立てないので、お財布と相談して、頑張る必要がある。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: Tier 4 学生ビザ
	ビザ申請先: 大阪ビザセンター
	提出書類: オンライン申請書、IELTS申請書、財政証明書、成績証明書、CAS Number (CAS Numberは事前に留学先大学に申請が必要だったので、CAS Number申請の手続きにかかる期間も考慮する必要がある) など
	手続きに要した日数: 一ヶ月半ほど
その他必要な事前手続き	CAS Number
出国年月日	2018年 8月 27日
経路(往路)	<ul style="list-style-type: none"> • 福岡国際空港→仁川国際空港(韓国)→ヒースロー空港(ロンドン) • ヒースロー空港→羽田空港→福岡国際空港
現地での出迎え	□有(大学関係者・その他) ■無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	■有(期間: 1週間 内容: 高速バスや電車のチケットの買い方など生活全般やカルチャーショックに関することなど、様々なオリエンテーションがあったり、留学生同士

	の交流のために日帰り旅行やパーティがあったりした) <input type="checkbox"/> 無
帰 国 年 月 日	2019年 6月 28日
経 路 (復 路)	・ヒースロー空港→仁川国際空港→福岡国際空港 ・福岡国際空港→羽田空港→ヒースロー空港

3. 留学費用について

支 出 額	総額	1,988,454	円	
	内 訳	渡航費 (往復)	360,000	円 (冬休みに一時帰国したので、二往復分)
		ビザ申請手数料	84,056	円
		予防接種費用	0	円
		保険料	94,430	円
		教材費 (授業料以外の学費)		円
		宿舍費 (住居費)	608,100	円 (2018年9月16日～2019年6月30日まで)
		光熱費	0	円
		食費	155,464	円
		通信費 (インターネット・携帯)	15,478	円
		交通費 (宿舍→大学間)	44,516	円
		交際費	176,010	円
その他 (ホテル費 10日間)	53,168	円		
(費)		円		
(費)		円		

4. 授業・修学について

授業の概要について (カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等)	<p>1 セメスターに3つの module(クラス)をとる。私は、一年間(2 セメスター)滞在したので、計6つのクラスをとった。基本的に1 module は2種類の授業形態があり、lecture(講義)とseminarに分かれている。Lectureで学んだ内容を、さらに詳しく深める(先生やクラスメートと宿題だったリーディングの文章について話し合ったり、先生に質問したりする)のがseminarである。</p> <p>私は、前期に Performance Strategies :Text(簡単に言うと、演劇のクラス)、Social Perspectives on Inequalities in Education、Black/White mixed-race lives の3つ、後期に、Performance Strategies :Ensemble、Ecological Positioning in Global Education、Health Promotion for Children&Families をとった。</p>
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についての アドバイス (留学前の履修、留学中、単位取得等)	<p>・履修について 交換留学生は、どの学年(レベル)のモジュールもとることができた。レベル4=一年生、レベル5=二年生、レベル6=三年生(3年コースが多い) そのため、上のレベルのモジュールをとれば、取り扱う内容や課題のレベルも高くなるので、シラバスを読んで自分にあったモジュールをとる。教育学部では、レベル6になると、最終課題のレポートの語数も4000語が多かった。レポートは、自分の考えを書くというより、本や論文、記事などの情報をまとめるというようなものだ。そのため、必要な情報の取舍選択ががとても重要で、自分のテーマに沿って、その結論をいかに根拠づけるかが評価の対象であった。</p> <p>・単位交換について</p>

	リーズベケット大学の20-credit(私がつとった1moduleは20-creditだった)は、10-ECT(European Credit Transfer System)に相当するらしい。しかし、広島大学はUCTS(UMAP Credit Transfer Scheme)を採用している。1UCTS(1単位)=1.5~1.6ECTSとなるため、リーズベケット大学の20-creditは、広島大学で6.25単位である。広島大学のほとんどの科目が2単位なので、1モジュールで最大3科目互換できるということである。しかし、内容が重なるという条件の下、全てを単位交換しようとするのが難しいと感じた。
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦(ティーチングスタイル・先生と学生との関係性など)	授業形態に関しては、レクチャーとセミナーの二つの形態があると知っていたので、特に驚いたことはなかった。レクチャーで終わりきれなかったスライドをセミナーで補ったり、少数人数でセミナーが組まれているのでグループワークがあったりする。先生との関係だが、日本よりとてもカジュアルで先生ともとても話しやすい感じだった(敬語がないというのが一番関係しているのかなと感じた)。出欠のチェックはあるが、成績には直接影響しない授業が多いので、授業に出てくる学生が授業毎にだんだんと少なくなって行っているように感じた。授業で使われたパワーポイントのスライドや参考となるウェブサイトなど自主勉強できる教材が全てネット(もみじ的なもの)にアップロードされるので、授業を休んだとしても、自分で追いつくことができる。しかし、留学生は毎回先生のサインをもらわなくてはならない(ピザの関係)なので、休むことはできない。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について

住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他()		
住居の広さ	約 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有(4人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他()		
住居費	1ヶ月当たり	£430(現地通貨)	約 59,000円
留学先での住居全般に関するアドバイス	私は、リーズベケット大学で一番安い大学の寮を選んだが、それでも家賃は高い。イギリスでは、アパートや家を友達とシェアすることが多いが、現地に友達がいらない留学生は大学の寮を選ぶことを勧める。		

(2) 医療について

保険の加入先	<input checked="" type="checkbox"/> 本学指定の保険 <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 <input type="checkbox"/> その他()		
保険の補償内容	補償額 死亡	10,000,000円、	入院1日 円 その他()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有(種類: 回数: 医療機関名:) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
留学先国の医療事情(日本と比較して)	熱が出た時があったがどう対処すれば良いのかよく分からなかったため、保険の電話相談サービスで、病状を伝えると、プライベートドクターを予約してもらえた。キャッシュレスサービスといって、医療費を払わずに医者に診てもらうことができた(保険の対象であったため)。処方箋を出してもらったが、薬局に行き薬を買うまではせず、日本から持参していた風邪薬で様子をみた。イギリスでは、風邪で病院に行くことは稀で、基本薬局に直接行き、市販の風邪薬で様子をみることが多い。		
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	いざ、病気にかかったしまった時、周りに世話をしてくれる家族や友人がいなくて、言語が違えば、きつくて出歩くことができない、留学先の医療事情が分からないとなると、大変です。そうなる前に、留学先の医療事情をしっかりと調べ、いざ病気になったときにどう対処すれば良いのか把握しておくことが大事。保険対象のサービスも頭に入れておくと、有効に活用できると思う。日本から薬を持参するべき。		

(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
<p>・危険を感じるほど治安が悪いと感じることはなかった。しかし、リーズも街に行くと小銭(change)を通行人にせびるホームレスがたくさんいる。しかし、彼らが何かしてくるなどはない。I do not have any cash などと言いつ断るが、小銭を求めるホームレスの横を通り過ぎるのはとても罪悪感を感じる。</p> <p>・ロンドンなどではスリに気がつけた方が良い(特にリュックの場合)。</p>	
(4) 食生活についてのアドバイス	
<p>私が滞在したリーズは、日本食レストラン、アジア料理を食べれるレストランがとても多く、どうしても日本食が恋しくなったら、日本気分を味わえる。アジアンスーパーマーケットもあり、中国の食べ物7、8割だが、日本の商品(調味料からお菓子までも)売ってあるため、自炊することができる。基本的に外食は高いので、節約をしたい方は自炊することをお勧めする。</p>	
(5) 気候・服装についてのアドバイス	
<p>イギリスは、9、10月の時点でとても肌寒く、半袖でいることはなかった。11月になると、最高気温でも10度前後でダウンコートが必須でした。雨がよく降るが、傘をさしている人はあまり見かけず、パーカーのフードをかぶるくらいの人が多かった。6月後半でも、朝晩はまだ寒く、日中も過ごしやすい気温だった(最高気温20度ほど)。イギリスの家には、暖房はついていてエアコンがないことから、夏はエアコンなしで過ごせるほどの気温であることが分かる。</p>	
(6) 学内外の施設・設備環境について(インターネット環境含む)	
<p>大学の図書館は24時間で、課題に追われる学生にとってはとてもありがたい。</p>	
(7) 現地学生や地域との交流について(どのような、機会・きっかけがありましたか?)	
<p>私は、バレーボール部に入ったので、週3で練習があった。練習だけでなく、試合(毎週水曜日の午後)やイベント(socialと言って、飲み会? イベントのようなものが毎週水曜の夜や週末にあった)もたくさんあり現地の学生とたくさん触れ合うことができた。自分は、英語が流暢でないので、部活に入ることはハードルが高いことかなと思ったが、イギリスの運動部のノリを知ったり、運動する機会を作ったり、現地にこけこむことができるいい機会だと感じた。</p>	
(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
<p>イギリス人は、オブラートに包んだ言い方をしたり、周りに気を使ったりするので、言いたいことをダイレクトに言いすぎてしまうことには注意した。何かしてもらったりしたら、礼儀正しく”Thank you”と言うのが基本である。“Sorry”を多用するのもイギリス人の特徴かもしれない。</p>	
(9) 日本から持っていくべきもの、持っていきべきでないもの	
<p>・日本から持って行くべきもの-薬、スキンケア用品、歯ブラシ(イギリスのものはゴツい)、日本食(お菓子、お茶、インスタントライス)、ライスクッカー(電子レンジでご飯がたけるもの)、コンタクトレンズ、旅行本、電子辞書、マスク(マスクをつける習慣がイギリスにはないので、売っている店もない)</p>	
(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス	
<p>イギリスでは、クレジットカードを基本使う。私は、日本のビザのクレジットカードを使っていたので、毎回8%ほど手数料(?)がかかっていたし、コンタクトレスではないので毎回PINを押さないといけないなど、面倒なことも多かった。イギリスで銀行口座を作れば良かったと後悔している。</p>	

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2022年 3月 (当初の卒業予定年月 2021年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input checked="" type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)

現在の状況および今後の予定・進路等	私は、二年生の9月からイギリスに留学した。教育学部生は、三年の夏に教育実習に行くが、私は教育実習のための必要な単位を取ることができなかったため、一年遅れて教育実習に行く予定である。二年の後期は、ゼミ調査もあるが、私は一年遅れて所属する。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	二年生の夏休みにある介護等体験だが、私はイギリスに8月の後半に行く予定だったので、それまでに介護等体験を終えられるように支援室に相談して、一番早いグループで行かせてもらった。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細（出版社、URL等）	コメント

8. 後輩へのメッセージ

何事も経験だと思います。日本では気づかなかったこと、考えたこともなかったことを、海外に出て初めて知ることもあるんだと感じました。人から聞いたり、本で読んだりするだけじゃ味わうことができない経験を現地でできました。自分の目でみるから意味があると思います。たった1年間の留学でしたが、考えさせられることがたくさんありました。一人ひとり留学のかたちは違うと思います。自分が行ってよかったと言える留学を実現できるよう応援しています。留学の準備はとても大変だと思いますが、積極的に調べて、人に聞いて、できるだけ不安を無くしていくといいと思います！

9. 自由記述 (1,200 字程度)

第二言語で長期間生活するという事は、普段は大丈夫だと感じていても、やはりストレスのかかることでした。カルチャーショックだって、自分は大丈夫だと思っていましたが、家族も友達もない異国に一人で旅立つと誰でも、何かしらネガティブに感じ、弱ってしまうときがあると思います。カルチャーショックも「自分は大丈夫だろう」、海外生活も「なんとかなるだろう」のような考えの私でしたが、やはり第二言語で生活することは、少なくとも少しはストレスのかかることでした。

イギリスでは、やり残したことがないようにしようと思い、できることには全て挑戦しました。教育学部の授業に加えて、演劇の経験は一切なかったけれど、パフォーマンスアートコースでドラマ(演劇)を学び、バレーボール部に入り、練習に励み試合にも出させてもらって、現地の友達もたくさんできました。友達に上手く自分の思っていることを英語で言えない時に、一番ストレスがたまりました。自分が知っている範囲内の英語でしか表現できなかったため、ちょっとニュアンスが違うと思っても、言える英語を使っていました。そうすると、「なんか自分じゃないな」なんて感じて、落ち込むこともありました。留学を通して私は、もっと自分のことを知りました。新しい環境の中で、様々なことに挑戦して、これ意外と好きかも、これは私あまり得意ではないかも、こんな状況でも意外に私がポジティブ思考できるんだな、などと感じ、同じ環境の中で過ごしていた日本では、きっと掴めなかった機会がたくさんありました。「環境を変える」ということはとても大きなことだと感じました。

留学前と留学後で、一番変わったことは「情報量」だと思います。今までは、日本語でほとんど全て情報収集していたけれど、そこに英語も加わると、様々な情報が入ってくると感じます。もちろん友達の幅も広がり、世界中の食べ物、文化などに興味を持ち、視野が広がり、世の中には無限の可能性があると知りました。

海外での異なる言語、文化、また様々な人種の人々と交流した経験から、私はもっと視野の広い、哲学的な考え方ができるようになったと思います。私は、必修だったからというような心持ちで大学の授業に望んでいたこともありましたが、イギリスの大学で社会学に触れた経験などから、「教育」はやはり大事だと改めて感じました。また自分はまだまだ無知で、日本のことに関して、世界のことも何も知らないと自分の未熟さを自覚しました。改めて、自分がやりたいこと、自分ができることをじっくり考えて、特に日本の演劇教育についてさらに勉強していきたいと思っています。

